

## 313m無名峰 (313.m)



### ● 概要

現在の亀尾地区や庵原地区から下海岸の戸井地区方面に行く手段としてはまだ交通機関としての車が一般的では無かった地代には歩いて行かなくてはならなかった。

平坦な道としては一度海岸に出て、海岸沿いの道を行く手段も有ったが、距離的には遠いので、ショートカット的な山道を歩いた。

その道は亀尾や庵原から山を越えて清水山の山頂下を捲いて下りに入る。

そこから再び 313m峰の腹を捲いて尾根を歩き石山に出る。ここから下に降りる道もあるが、戸井の各方面に行く道がさらに伸びて、三等三角点村中の裾を進んで、降りる道やさらに遠くに降りる道もあり、方面別に山道が作られていた。

戸井地区は春が一番早くやって来る場所で、漁場としても活気があった。

漁の時期になると本州からも多くの漁師がやって来て漁業に従事していたし、近郊からも漁業に従事する人が移動していた。

ここで案内するのは道の途中にある 313mの無名峰で、頂上は木々も少なく特に南側は津軽海峡を望む事が出来る。

頂上は短い笹や草に覆われていて、ここで海峡を眺めてのんびり弁当を広げて食べるのも良いだろう。

### ● 登山ルート

登山口迄のルートは、清水山南にある鶴野町集落にある稲本稻荷神社の前の舗装道路を東に行くと右に下って曲るカーブが有る。ここが入り口になる。

林道通行止めになっている時はこの付近に駐車して行こう。

車の駐車できるスペースはある。

立ち入り禁止のゲート（無雪期はないかもしれない）を入ると幅の広い林道が伸びている。橋を渡ると林道は大きく左に曲がる。川の上流には砂防ダムが見え、その先にはこれから登る 313m無名峰が見える。

さらに林道を進みやがてピーク地点の広場に出る。ごみ捨て禁止の黄色い看板が目印だ。この場所の左側には清水山から下って来る古道が見える。

この看板から少し行くと右手の道路傍に金属網に石の入った土砂崩れ防止の構造物が有る。その右端の斜面を登る。

いきなりかなり古い赤い（もうピンクになっている）テープが出て着て、誰かが昔登っていたんだらうと思う。

道ははっきりした形で残っているが、直ぐにはっきりしなくなる。ここは少し左手の山の方向に登って行こう。

少し南側に再び道が出て来る。この道に沿って登って行けば、最後は幅の広い尾根になり、更に登って頂上に着く。

頂上の一帯の南側は木が一切無く、かなり広い範囲で短い笹と草が広がっている。

弁当を食べるのに良い雰囲気のある場所である。南に目を向けると汐首岬を始め海岸沿いの集落が見え、その先には津軽海峡が見える。天気の良いと当然、下北半島も見える事であろう。

ハイキングには丁度良い山であろう。

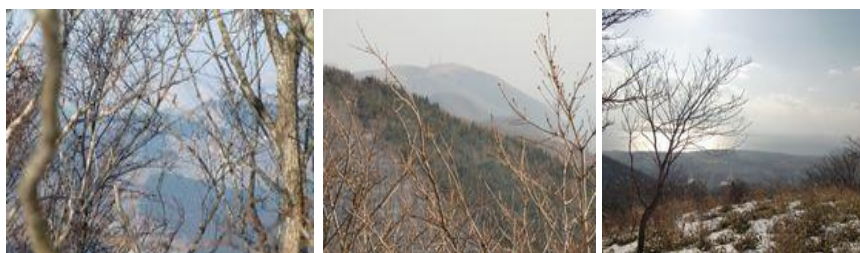
登り 1 時間

下り 50 分

# 313m無名峰登山コース



## 頂上からの景色





大正4年の地形図にある道路

